

地域活性化という「遊び」

59

京都市 福知山市 「みわ・ダツシュ村」から

山本晋也

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかたわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいくなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダツシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダツシュ村副村長。

「うわーすごいなー」

あまりに美味しそうな

料理の出来栄に

おじいちゃんおばあちゃんも

思わず席から立ち上がりました。

今年20歳の誕生日を迎えた長男は狩猟免許を取得。

解禁日から2週間

荒れた山を歩き獣道を見極め

米ぬかなどで誘引

罠の製作から設置まで

ひとりですべてをこなし

みごと70キロのイノシシを

仕留めました。

そこから先はいつものように

生肉解体は兄弟で協力しあって

しっかりこなし

部位ごとに真空パック。

精肉時に出る切れ端は

カレーやパスタのミートソースなどに

利用。

内臓や骨も

モツ煮やラーメンスープをとり

スープをとった出汁ガラも鶏の餌。

さらに鶏が食べ残した骨は

洗ってご近所さんの犬の餌にと

自然の恵みに感謝をこめて

最後の最後まで利用させていただき

ました。

集落で獲れたイノシシ

しかも記念すべき初獲物ですから

長男は集落のお年寄りにも

いままで色々とお世話になった

お礼を兼ねて

是非食べていただきたいと年末に

小さな食事を企画しました。

手打ち蕎麦やお寿司

パスタにグラタン

ここ数年食べていただいたものを思



長男の初獲物。体重なんと70キロ超え。

い起こし

何が一番よろこんでいただけるかな

とみんな考えて

初獲物のイノシシを

お世話になったお年寄りに振る舞う

とても評判のよかったグラタンなど

頭に浮かびましたが

せっかくやるなら

あたらしいメニューがいいというこ

とで肉まんに決定。

イノシシ肉まん

もちろん自分たちで作った経

験はありますが



子たちが精一杯の気持ちを込めた料理は人を笑顔にします。



完成した肉まん。
こちらは若者用
Big サイズ。



料理を食べたあと
お年寄りからはいつも
昔の貴重な体験を聞かせていただけます。
本には載っていない本当に貴重なお話。

お客さんにお出しするとすると話は別。

初対面の方であろうと

よく知った友達であろうと

やはり自分たちで納得した完成品を

お出ししたいというのが子たちのポ

リシーとなりつつあります。

イノシシのほか昨年春ごろ

筍を掘って作っておいだメンマなど

使い

味付けや生地の固さと具のバランス

お年寄りの体に合わせた

出来上りの大きさと見た目

盛り付け方や提供方法など

真剣な試作は3回にわたりました。

以前、味などの審査はおもに僕
がしていて

ダメ出しをすると

さすがにシヨックなのか

ムツとした顔をして

なかなか試作が進まないこともよく

ありました。

だれでも審査で悪い評価をされると

あまり気持ちのよいものではありませんが

進歩を望むならそれはとても重要な

事です。

悪い評価を悪い評価ではなく

自分たちの現状把握と捉えよう。

悪いという事だけに目を向けず

何が原因で

その悪い状況を招いているのか

自分と向き合って

そのあたりの事を把握できれば

解決に向かう道筋が

必ず見えてくる。

そういう話を

厳しいダメ出しをするたびに

できるだけわかりやすく根気よく

時には

例え話やユーモアも交えながら

何度も何度も繰り返し返すうち

やっとその意味が

わかったのでしょうか。

最近では子たちも積極的に

自分たちの問題点に目を向け

自分たちでダメ出し。

そして自分たちで解決の道筋を考え

る事を楽しむというくらいに成長。

そして3回くらいそれを繰り返すと

メニューは概ね完成するようになりました。

田舎に移住してからの子育ても

早10年。

子たちの行動や自分とのやりとりは

毎日かさざり振り返り

できるかぎり柔軟に考え対応してき

たつもりですが

まだまだ試行錯誤はつづきます。

大人より遥かに柔軟な考えをもった

子たちの立派な成長を

しっかりと受け止め

限界集落の新しい時代を家族とともに

に作っていきたいと思います。